

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.22
2014.October

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

福治康秀 (ふくじ やすひで)

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。

95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。

日本病院・地域精神医学会理事。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

重心病棟 (病棟建替2期工事) の建替工事が始まりました

企画課長 西尾英高

琉球病院の病棟建替は1期工事と2期工事に分けての工事となっております。

1期工事は精神と認知症の病棟建替で、今年の5月に着工し来年5月末が完成予定で順調に工事が進んでいます。今は本格的な基礎工事に入ったところで来年の1月末にはモデルルームが完成予定で内装を見ることが出来ます。

2期工事は築38年が経過した重心病棟と療育訓練棟の建替です。9月8日に安全祈願祭を行い、完成は来年の11月末の予定です。安全祈願祭の当日は好天には恵まれましたが台風の余波による風で式場のテントが時折バタつくなか、沖縄県護国神社の宮司様を齋主に厳粛のうちに式を終えました。

ところで、安全祈願祭とは新しい建築工事などを始める際に関係者が一堂に会して、土地の神様にご挨拶をして工事の無事を祈願する祭祀で、本土では大安の日の午前中に行うことが多いのですが、沖縄では干潮から満潮に向かう上げ潮時にあわせて行うということです。これは私の知る限りでは沖縄だけの慣習です。人間の赤ちゃんが生まれてくるのが干潮から満潮への時間帯であり、それにあわせているということです。これから建築を始める建物に対する沖縄ならではの暖かみのある優しさを感じる話です。



新しい重心病棟は3階建てで1階と2階が病床数45床の病棟で、3階部分は療育訓練を行うフロアとなります。病棟の完成は利用者やそのご家族の方々には本当に楽しみにいただいています。

新しい重心病棟は1期工事の精神と認知症病棟に続く琉球病院の2番目の赤ちゃんということになります。兄弟が揃って無事で立派に育ち、地域の皆様のお役にたてますよう職員が心をひとつに愛情をもって見守り育てていきたいと思えます。

最後になりますが日頃からお世話になっている金武町の行政関係の皆様にはお忙しいなか安全祈願祭にご参列いただき本当にありがとうございます。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期 ユニット 4床
- ・重症心身障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス / 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線(浜田)バス」下車徒歩3分
自動車 / 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事：請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組
建築(第2期)工事 (株)浅沼組

教育・研修

- 琉球病院『ミニコンサート』
日時：平成26年10月2日 木曜日 14時～15時
場所：琉球病院作業療法棟「あしびなあ」 琉球民謡三線ライブコンサート他
- 包括的暴力防止プログラム(CVPPP)フォローアップ研修
日時：平成26年10月27日 月曜日 8時30分～17時00分
場所：琉球病院研修棟3階研修室 対象：院内・院外職員

● 地域医療連携室だより

当院では治療抵抗性の統合失調症に対するクロザピン治療を行っており、地域医療連携室では県内にある精神科病院や患者さんのご家族からの問い合わせについてお答えしています。お薬についての問い合わせやクロザピン治療について興味のある方はいつでもお気軽に地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通



空床状況
9月29日現在

精神科病棟
8床

認知症
1床

アルコール
6床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は120例になりました。8月の新規導入は2例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も40例を超えています。クロザピン専門外来も3回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年8月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



こども心療科

こども心療科待合室横のウッドデッキに大きな壁画が取り付けられました。こどもたちが大好きなキリンさんとゾウさんのイラストです。天気が悪い日は暗い印象だったのですが、壁画が付き、明るく楽しい場になりました。

当科では地域の保健師さんや学校の先生方との交流会、研修会を実施しております。興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。



認知症医療

<認知症病棟におけるチーム医療のご紹介>

認知症病棟では、入院された患者様とご家族の皆様を、入院時から退院時までチームでサポートしております。チームメンバーは、①主治医 ②受け持ち看護師 ③病棟看護師長 ④精神保健福祉士(相談員) ⑤作業療法士 ⑥心理療法士の6名です。特に④⑤⑥のメンバーは認知症病棟専属で担当が1名ずつ配置されており、退院に向けて患者様が安心・安全な環境で暮らせるようにそれぞれの役割を發揮しています。また具体的な退院支援としましては、介護保険申請を行い在宅介護の支援を行ったり、チームメンバー・患者家族・担当のケアマネージャーや施設職員を交えた定期的な話し合いの実施、自宅への退院前訪問や介護施設の見学などを計画的に行っております。

入院に際しまして、不安もあるかと思いますが、私達スタッフ一同がチームで患者様やご家族の皆様をサポートしてまいりますのでご安心ください。また、何かご質問などございましたら、お気軽にお問い合わせください。



重症心身障がい児医療

重度心身障害病棟の建替え工事(2期工事)が、いよいよ始まりました。利用者さんが心地良く過ごせる環境が整うように、今後具体的な施設・設備に関する詰めのやり取りを行っていかねばならないと思っています。療育活動は現在、工事のために戸外散歩は行えない状況です。ただ室内療育でも、利用者さん方が楽しめる活動はたくさんあります。今回はその中の一つ、ふれあいリラックス体操をご紹介します。ゆったりとした音楽に合わせて、利用者の手指→手掌→腕→足指→足裏→脚→腹部→背中の順に、職員が手掌でさすりながらスキンシップを図ります。くすぐったい等の理由で受け入れが苦手な方もいらっしゃいますが、回数を重ねて行うことで利用者さん側も慣れて下さいます。特に言語的コミュニケーションが難しい利用者さんに対しては、ふれあうことで穏やかな関係性が築けることもあります。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では8月現在、外来通院の患者様54名、入院中の患者様25名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来に受診し相談して下さい。

<平成26年度 第1回 児童・思春期のアルコール関連問題研修会のご報告>

平成26年8月22日(金)に、平成26年度第1回児童・思春期のアルコール関連問題研修会を開催致しました。この研修会は、児童・思春期に関わる教育関係者向けのアルコール関連問題に特化した研修会です。沖縄県は、未成年の飲酒による補導率は全国平均の6倍の高さです。若い世代の外傷、自殺、中年世代の健康被害、アルコール依存症、高齢者の認知機能低下などのアルコール関連問題の予防は、児童・思春期から行われなければいけません。県内各地から小、中、高校の教員、養護教諭、保健所や行政の健康保健に関わる保健師、県警本部少年課を中心に30名の参加がありました。本島内からだけでなく石垣、宮古からの参加がありました。関係者の問題意識と熱意が強く感じられました。この研修会を機に、現時点で3ヶ所の学校からアルコール関連問題の講演の依頼がありました。今後も地域のアルコール問題対策に力を入れてまいります。

包括的地域精神医療 (ACT)

朝夕秋の気配を感じる季節になりました。スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋等何か活動を開始するには良い季節になりました。当院の訪問看護の利用者様にとっても、それぞれに活動を始めることを勧めています。ちょっと肥満を指摘されている利用者様は是非この快適な季節に運動を始めることをしてみませんか。また、ご家族の方、支援者の方等と一緒に運動を始めてみませんか。

臨床研究部活動状況

「琉球病院倫理委員会について」

臨床研究部で実施される臨床研究は、琉球病院倫理委員会の規定に基づき、審議され、研究の可否が決定します。具体的には、医の倫理に関する事項をヘルシンキ宣言の精神及び趣旨を尊重して審議し、「臨床研究に関する倫理心」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を遵守し、倫理的配慮を図って行われています。審議委員は病院長をはじめ2名の外部委員と4名の内部委員で構成され、研究内容について定期的に審議が行われています。委員会で審議された内容、研究実施の情報は当院ホームページで公開しております。